

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 3 月 1 日

事業所名: チェイルドサポートもりやま

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	13	1	1階と2階に分けたスペースがあることで広さは充分だと思う 活動に合わせて広い部屋と狭い部屋を使い分けている	状況によってはもう少し広いとやりやすいと思う時がある
	2 職員の配置数は適切である	9	5	充分にいると思う 概ね満たしているも時間帯でスタッフが少ない時は声を掛け合っている	定員によってはもう少し人数が欲しい時もある
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7	7	スロープを購入し、バギーの移動がスムーズに行えており、通路の物にも配慮している。	トイレや一部の場所、2Fについては否 段差がある、トイレ等は狭く使い辛いのではないかと
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	10	4	カンファレンスや振り返りを定期的に行っている	振り返りと全員がきちんと行えるように出来れば良いと思う
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10	4	日々の保護者からの声やアンケートにより改善しようと努めている	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	9		
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	10	外部運営についての評価	
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	13	1	毎週勉強会を行っている。他社内での研修の参加 他職種からの勉強会を受け、知識の向上に努めている 何らか勉強会もあり、学ぶ機会が多い	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	10	4	保護者面談やモニタを行いニーズに合った計画を作成できている 面談にて情報共有している スタッフ間でモニタリングを行い、次の目標、計画に反映させている	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	11		アセスメントツールを使用できていないので客観的評価できるようなツールを使用したい
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	12	2	MTGで話し合っている 職種関係なく全員で行っている	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	13	1	似た内容であっても固定化には至るほどではない ローテーションで違う職員が活動を考えている	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	7	活動時間が長く取れる日は、内容のボリュームアップを出来るようにしている。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	12	2	集団に入ることが難しい子にはスタッフを配置して対応している。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10	4	垂心MTGを取り入れている ほぼ毎日MTGを行えている 事前に毎回共有・周知され把握出来るようにしている	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	12	2		
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10	4	協力しながら記録できるようにしている	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	12	2	モニタリング時に様々な意見をまとめて正しく見直し出来るようにしている	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	6	8	様々な活動を体験出来るよう備らないように行っている。		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	8		相談員と連携して開催の依頼等をしていきます
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	10	4	ミスがないよう確認の連絡をこまめに行うようになっている。報連相がされている	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	11	3	必要時に連絡が誰でもとれるようにラミネートしている	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	10	サービス調整会議を行っている	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	12		学校の卒業生がまだいない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	13		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	14	誰でも利用できる交流館や公園を活動で利用しているようにしている。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	13		現場に余裕がある際に参加している
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	12	2	ノートの使用、送迎時口頭で伝える 送迎時にコミュニケーションを取っている	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っている	4	10	ペアトレの勉強会に参加し、理解を深めている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	11	3	契約時行っている	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	6		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	7	保護者会を開催している 年に数回親子交流会という形で実施している	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	13	1	記録に残している 都度必要な説明を行っている	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	13	1	チャイルド通信を月1で発行している	
	35	個人情報に十分注意している	14	0	保護者の意向に合わせてブログ写真や日々の発言に気を付けている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	14	0	ファイルやノートの作成 発言の内容や言葉選びに気を付けている	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	11	3	ハロウィンやクリスマス会で地域との関わりが出来た。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	9	5		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	2	12	防災バッグの見直し、避難訓練等、研修も合わせて行っている。	去年に比べて今年はまだ出ていないように感じる 今後は計画を立てて実施していく
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	6	定期的に虐待に関する周知話し合いを行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	11	3		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	10	4	アレルギーの子どもと内容、アレルギー発症時の対応等、掲示して対応している	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	11	3	前月の物をMTG内で話しあっている 定期的にヒヤリハットの報告と振り返りを行い、再発防止に努めている。	